

月刊 インド



Monthly Journal of the Japan-India Association

公益財団法人 日 印 協 会（日印間の政治・経済・文化交流に貢献して 111 年）



〈就任宣誓式でのムカジー大統領とモディ首相(右)〉

2014 年 5 月 26 日

提供：インド外務省

目次

1. 2013 年度決算 評議員会・理事会…………… P. 3
2. インドの新内閣に関する平林理事長のとりあえずの評価…………… P. 8
3. アッサム・ダージリン紅茶の旅(2014 年 4 月 12 日～21 日)…………… P. 11
4. インドニュース(2014 年 4 月)…………… P. 13
5. イベント紹介…………… P. 16
6. 新刊書紹介…………… P. 18
7. 掲示板…………… P. 19

1. 2013 年度決算 評議員会・理事会 The Board Meetings of the Trustees and Directors

＝◇ 2013 年(平成 25 年)度決算理事会 ◇＝

1. 開会の日時及び場所

日 時: 2014 年 5 月 27 日(火) 15:00～16:00

場 所: 国際文化会館 セミナーD 室 東京都港区六本木 5-11-16

2. 出席者 12 名(当該日の理事数 19 名) 他に監事 1 名出席

3. 議案

(決議事項)

第 1 号議案 「2013 年度事業報告(案)」の承認の件

第 2 号議案 「2012 年度決算報告(案)」の承認の件

第 3 号議案 「評議員会の招集 6 月 4 日(水)」の承認の件

第 4 号議案 「評議員会に提出する役員等候補者名簿」の承認の件

(報告事項)

第 5 号議案 「会長、副会長、理事長、常務理事の選任に関する手続き」の件

第 6 号議案 「顧問の再任」及び「新顧問の就任」の件

第 7 号議案 「役員報酬等規約」改定の件

第 8 号議案 その他



4. 議事の経過と発言者の発言内容

冒頭、平林理事長より、本日の出席者数が定款第 38 条(決議)に規定する「理事総数 19 名の過半数の出席」(12 名)が確保され、定足数に達したことを報告し、議長は定款第 39 条(議長)の規定により、森喜朗会長が就任する旨報告し、開会を宣言した。

第 1 号議案、第 2 号議案、第 3 号議案、第 4 号議案は、出席理事の全会一致により原案通り承認された。

第 5 号議案、第 6 号議案、第 7 号議案については、平林博理事長より説明がなされた。

第 8 号議案については、平林博理事長より、6 月 19 日(木)経団連ホールで開催される日印協会、経済広報センター並びに日印経済委員会の三者共催によるシンポジウム『インド総選挙の総括と新政権の動向—日印関係への影響』について説明がなされた。

5. 議事終了

議長より、全ての議案が、活発な質疑の結果、原案通り承認されたことに對し謝意表明があり、続いて、閉会を宣言し全議事を終了した。

＝◇ 2013 年(平成 25 年)度評議員会 ◇＝

1. 開会の日時及び場所

日 時 : 2013 年 6 月 4 日(水) 15:00～16:00

場 所 : 国際文化会館 セミナーE 室 東京都港区六本木 5-11-16

2. 出席者 7 名(評議員現在数 7 名)、事務局 4 名出席

3. 議案

(決議事項)

＝◇ 日印協会役員名簿 ◇＝

代表理事・会長		森 喜朗	第 85 代・第 86 代内閣総理大臣	
代表理事・理事長	※	平林 博	(公財)日本国際フォーラム副理事長	元駐印・駐仏大使
評議員		佐川 雄一	サガフユウイチコンサルタンツ	代表
評議員		渋澤 健	シブサワ アンド カンパニー	代表取締役
評議員		谷野 作太郎	(公財)日中友好会館顧問	元駐印・駐中大使
評議員		中野 良子	(公財)オイスカ	会長
評議員		堀本 武功	京都大学大学院	特任教授
評議員		松田 純一	松田綜合法律事務所	所長 弁護士
評議員		松本 洋	国際協力推進協会理事	元国際文化会館理事
理事・副会長		鈴木 修	スズキ株式会社	代表取締役会長兼社長
理事・副会長		佐々木 幹夫	三菱商事株式会社	相談役
理事・副会長		岡 素之	住友商事株式会社	相談役
理事・副会長		坂根 正弘	株式会社小松製作所	相談役
理事・副会長		山田 隆持	株式会社NTTドコモ	取締役相談役
理事・副会長		檜田 松瑩	三井物産株式会社	取締役会長
理事・副会長		棚田 京一	トヨタ自動車株式会社	常務役員
理事		大内 晴美	大内晴美税理士事務所	所長 税理士
理事		鹿子木 謙吉	元日印協会常務理事	
理事		小島 秀樹	小島国際法律事務所	代表パートナー
理事		近藤 正規	国際基督教大学	上級准教授
業務執行理事・ 常務理事	※	笹田 勝義	元日印協会事務局長	元インド三菱電機社長
理事		竹中 千春	立教大学法学部	教授
理事		原 佑二	前日印協会業務執行理事・ 常務理事	元インド三菱商事社長
理事		半田 晴久	世界芸術文化振興協会	会長
理事		比良 竜虎	株式会社シンリョー	相談役
理事		増田 泰三	有限会社シタァール	代表取締役
理事		山田 真美	日印芸術研究所	言語センター長
監事		江田 仁	帝京平成大学教授	元三菱重工業インド代表
監事		高梨 恒弘	高梨恒弘税理士事務所	所長
顧問		伊藤 憲一	(公財)日本国際フォーラム	理事長
顧問		梅葉 芳弘	三菱化学株式会社	取締役常務執行役員
顧問		榎 泰邦	榎インド総合研究所代表	元駐印大使
顧問		勝田 友治	前日印協会理事	元(株)竹中工務店
顧問		小林 俊二	元日印協会副会長	元駐印大使
顧問		佐々木 隆雄	元日印協会専務理事、前同評議員	元大倉商事インド代表
顧問		佐藤 久彰	株式会社デンソー	常務役員
顧問		田原 総一郎	田原総一郎事務所	代表、ジャーナリスト
顧問		長崎 暢子	龍谷大学 現代インド研究センター	東京大学名誉教授
顧問		野田 英二郎	元日印協会評議員	元駐印大使
顧問		前田 專學	東京大学名誉教授	
顧問		三角 佐一郎	元日印協会専務理事	

副会長は就任順、他の氏名は 50 音順

※は常勤、他は非常勤

貸借対照表

(2014年3月31日現在)

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資 産 の 部			
1 流動資産			
現金預金	18,279,952	19,208,868	△ 928,916
現金	65,175	13,695	51,480
普通預金	3,663,183	5,119,387	△ 1,456,204
定期預金	14,000,419	13,996,921	3,498
振替口座	551,175	78,865	472,310
前払金	394,776	388,185	6,591
貯蔵品	678,759	236,775	441,984
流動資産計	19,353,487	19,833,828	△ 480,341
2 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	5,000,000	5,000,000	0
基本財産合計	5,000,000	5,000,000	0
(2) その他の固定資産			
什器備品	50,921	72,435	△ 21,514
図書	919,000	909,000	10,000
立像他	505,671	505,671	0
事務所敷金	2,197,000	2,197,000	0
その他の固定資産合計	3,672,592	3,684,106	△ 11,514
固定資産計	8,672,592	8,684,106	△ 11,514
資産合計	28,026,079	28,517,934	△ 491,855
II 負 債 の 部			
1 流動負債			
未払金	366,644	0	366,644
前受会費	916,000	0	916,000
預り金	109,685	104,895	4,790
流動負債計	1,392,329	104,895	1,287,434
2 固定負債			
固定負債計	0	0	0
負 債 合 計	1,392,329	104,895	1,287,434
III 正味財産の部			
1 指定正味財産	0	0	0
2 一般正味財産	26,633,750	28,413,039	△ 1,779,289
(うち基本財産への充当額)	(5,000,000)	(5,000,000)	0
正味財産合計	26,633,750	28,413,039	△ 1,779,289
負債及び正味財産合計	28,026,079	28,517,934	△ 491,855

正味財産増減計算書

2013年4月1日から2014年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 基本財産運用益	1,250	1,300	△ 50	
基本財産受取利息	1,250	1,300	△ 50	
② 受取会費	22,603,900	23,500,850	△ 896,950	平成26年度対応会費は前受会費に計上した。
特別法人会員受取会費	11,550,000	12,460,000	△ 910,000	
一般法人会員受取会費	8,273,000	8,285,000	△ 12,000	
個人会員受取会費	2,780,900	2,755,850	25,050	
③ 事業収益	1,000,600	2,309,000	△ 1,308,400	
公 1 情報収集調査研究事業	0	3,900	△ 3,900	
公 2 文化交流事業開催収益	182,000	2,049,000	△ 1,867,000	交流会
公 3 講演会等開催収益	463,000	256,100	206,900	機関誌広告収入他
公 4 文化行事収益	355,600	0	355,600	パッチ収入他
公 5 提言事業	0	0	0	
④ 受取寄付金	10,200	66,000	△ 55,800	
現金による受取寄付金	200	56,000	△ 55,800	
蔵書他受取寄付金	10,000	10,000	0	現金以外の寄付
⑤ 雑収益 (受取利息)	4,833	5,036	△ 203	
経常収益計	23,620,783	25,882,186	△ 2,261,403	
(2) 経常費用				
① 直接事業費	7,684,427	7,863,185	△ 178,758	
公 1 情報収集調査研究事業	1,118,417	874,889	243,528	国外出張、現代インド・フォーラム他
公 2 文化交流促進事業	1,814,067	2,730,616	△ 916,549	シン首相講演会開催
公 3 会報等発行事業	2,836,147	3,029,285	△ 193,138	機関誌 年10回発行
〃 広報(ホームページ)事業	488,419	299,139	189,280	HP費用
〃 講演等開催事業	27,720	135,356	△ 107,636	様々なインド他
公 4 文化行事費用	5,130	131,094	△ 125,964	ナマステインディア
〃 110周年記念事業	1,294,527	562,806	731,721	110周年記念事業、出版・パッチ (前年度は60周年記念事業)
公 5 提言事業	100,000	100,000	0	
② 間接事業費(管理費)	17,715,645	16,857,848	857,797	
役員報酬	4,200,000	4,200,000	0	
人件費(給料手当等)	7,612,925	6,638,695	974,230	
物件費	5,902,720	6,019,153	△ 116,433	
会議費	165,595	189,340	△ 23,745	理事会関係費
旅費交通費	969,230	976,440	△ 7,210	通勤費
賃借料	2,768,220	2,768,220	0	
通信費 他	1,978,161	2,025,281	△ 47,120	
減価償却費	21,514	59,872	△ 38,358	
経常費用計	25,400,072	24,721,033	679,039	
当期経常増減額	△ 1,779,289	1,161,153	△ 2,940,442	
2 経常外増減の部			0	
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 1,779,289	1,161,153	△ 2,940,442	
一般正味財産期首残高	28,413,039	27,251,886	1,161,153	
一般正味財産期末残高	26,633,750	28,413,039	△ 1,779,289	
II 指定正味財産増減の部			0	
当期指定正味財産増減額	0	0	0	
指定正味財産期首残高	0	0	0	
指定正味財産期末残高	0	0	0	
III 正味財産期末残高	26,633,750	28,413,039	△ 1,779,289	

2. インドの新内閣に関する平林理事長のとりあえずの評価 General Elections of India's Lok Sabha, 2014

2014 年 5 月 29 日

公益財団法人日印協会 代表理事・理事長 平林 博

インドでは、本年 4 月から 5 月にかけて行われた 9 回に分けた下院総選挙の結果、野党第 1 党であったインド人民党(BJP)が単独過半数の議席を取り圧勝した。

さっそく 5 月 26 日、ムカジー大統領による宣誓式で首相に就任したナレンドラ・モディ氏(前グジャラート州首相)は、組閣を行った。

BJP は、下院では単独過半数を取ったが、上院ではそうではなく友党の支援が必要である。この為、かつてのバジパイ政権と同様、BJP が中心となった国民民主連合(National Democratic Alliance)を組んだため、閣僚には連立のパートナー諸政党からの起用も行った。

全閣僚名簿は、“Press Information Bureau, Government of India” のサイト(協会 HP でリンクを貼っています。URL <http://pib.nic.in/newsite/erelease.aspx?relid=105163>)をご参照頂きたい。閣内大臣(Cabinet Minister 閣議に出席 本誌 P. 10 をご参照下さい)は 23 人、閣外大臣(Minister of State)で独自の所掌と権限をもつものは 10 人、閣内大臣の下で権限を分掌する閣外大臣 12 人で、計 45 人の内閣である。前のマンモハン・シン内閣に比して半減近くの規模である。

1. モディ首相は、経済成長路線重視で知られ、グジャラート州においては内外からの投資優先策をとって、経済の成長を加速させることに成功した。

また、モディ首相は親日家としても知られており、Vibrant Gujarat と称する一代経済イベントでは日本をパートナー・カントリーとして特別扱いしたことも 1 度ならずあった。

他方、モディ首相は熱心な(批判者によっては過激な)ヒンズー教徒として知られ、2002 年、ヒンズー教徒とイスラム教徒が反目を高めた際に、ヒンズー教徒がイスラム教徒を多数殺害した事件において黙認した、ないしは効果的な措置を取らなかったと批判されてきた。このため、欧米諸国の一部は、モディ州首相に対し入国ビザを出さないという措置を取ったところもある。米英などは、モディ首相誕生が確実になると、急遽関係を修復するようになった。

駐インド大使時代(1998～2002 年)の筆者の経験では、モディ氏は極めて熱心なヒンズー教徒であるが、きわめて清廉潔白な政治家である。

モディ首相は、閣僚や各省幹部に対し、早速、政府調達に親族に対して行ってはならず、またネポティズム(一族郎党を官庁幹部に起用すること)を禁ずるとの指示を出した。

2. BJP は圧勝したが、世代交代も印象付けた。バジパイ元首相はかねてから体調がすぐれないが、もう一人の長老であった L. K. Advani 氏は、今回閣僚としては起用しなかった。M. M. Joshi 氏(筆者の頃は人的資源大臣等を歴任)、Yashwant Singh 氏(同じく大蔵大臣)、Jaswant Singh 氏(同じく外務大臣)等の長老も閣内には起用されなかった。

他方、BJP の上院議員団長であった Sushma Swaraj 女史は外務大臣、落選したものの BJP のホープであった Arun Jaitley 氏、前の BJP 党首であった Raj Nath Singh 氏は、それぞれ財務・国防・企業大臣、内務大臣の重職に起用された。

インドにおいては、大統領府の前の Raj Path(王の道)の左右の一角が North Block, South Block に分かれて政府中枢をなしている。ノース・ブロックには財務省と内務省、サウス・ブロックには首相府、外務省、国防省があり、これらの官庁が政府の最重要機関である。他の官庁は、Raj Path(王の道)をインド門方向に辿った南北に点在している。

3. 今回の組閣で人目を引いたのは、外務大臣である。スシュマ・スワラージ外務大臣は、BJP の女性政治家リーダーであり、ソニア・ガンジー国民会議派総裁、ジャヤ・ジャヤラリート AIADMK 党首(タミルナド州首相)、ママタ・バナジーTMC 党首(トリナムール国民会議派)等と並ぶインドの代表的女性政治家である。なおスワラージ氏は、筆者が駐インド大使であった頃は通信大臣等を務めていたが、毎年 12 月の天皇誕生日レセプションには副大統領とともに日本大使公邸に来ていただいた親日家である。今回の人事により、インド外務省は大臣及び次官(スジャータ・シン氏)ともに女性となり、画期的なことである。
4. アルン・ジャイトリー氏が財務大臣、国防大臣の 2 大重職(他に企業担当相も兼任)を兼ねるが、筆者がインドの要人から聞いたところでは、モディ首相が国防大臣として起用しようとした者がこれを固辞したため、とりあえずジャイトリー大臣に兼任させた由である。いずれ、国防大臣が任命されよう。
5. 連立諸党からは、下記の 4 人が閣内大臣となった。
 - ・Ramvilas Paswan 消費者、食糧、公的分配担当大臣(ビハール州の地域政党である「人民の力」党出身)
 - ・Ashok Gajapati Raju Pusapati 民間航空大臣(アンドラ・プラデシュ州の地域政党 TDP 出身)
 - ・Anant Geete 重工業・公営企業大臣
(マハラシュトラ州の地方政党であり、ヒンズー至上主義の Shiv Sena 出身)
 - ・Harsimrat Kaur Badar 食品加工大臣(パンジャブ州の地域政党であるシロマニ・アカリ・ダル党出身)
6. なお、今回の総選挙では歴史あるインド国民会議派が惨敗したが、このほかにインドの全国政党の一つ共産党(西ベンガル州とケララ州)、地方で有力な政党である大衆社会党(UP 州)、ジャナータ・ダル(ビハール州)、DMK(タミルナド州)等も惨敗し、それぞれの地域における政治的地位を大きく減退させた。この結果、インドの国会においては、下院では BJP が過半数を取ったが、上院ではそうではなく、わが国の国会事情と似た現象になっている。
7. 安倍総理とモディ首相とは、ウマが合うようである。安倍総理は、今年中にモディ首相が訪日するよう招請した。

また、安倍総理が電話によってモディ首相に祝意を表した際、モディ首相は、「日印協会の森喜朗会長とは、(モディとモリという)同じような姓をもっており、親近感を覚えている。できるだけ早くお会いしたい」との伝言があった。筆者はインド総選挙後の情勢の収集と要人との会談のために訪印を計画しているが、この機会に、森会長の親書をモディ首相にお渡しすることになろう。

＜閣内大臣 (Cabinet Minister)＞

5月27日現在

役職	氏名	選出	政党	年
首相 Prime Minister	ナレンドラ・ダモダルダス・モディ Shri Narendra Modi	下院議員 グジャラート州	BJP	63
内務大臣 Home Affairs	ラージナート・シン Mr. Raj Nath Singh	下院議員 ウッタル・プラデシュ州	BJP	62
外務大臣 External Affairs	スシュマ・スワラージ Mrs. Sushma Swaraj	下院議員 マディヤ・プラデシュ州	BJP	62
財務大臣 Finance 国防大臣 Defense 企業大臣 Corporate Affair	アルン・ジャイトリー Mr. Arun Jaitley	上院議員 グジャラート州	BJP	61
議会大臣 Parliamentary Affairs	ヴェンカイア・ナイドゥ Mr. M. Venkaiah Naidu	上院議員 カルナタカ州	BJP	64
大規模輸送大臣 Mega Transport	ニティン・ジャイラム・ガドカリ Mr. Nitin Jairam Gadkari	下院議員 マハーラーシュトラ州	BJP	56
鉄道大臣 Railways	サダナンド・ゴウダ Mr. D. V. Sadananda Gowda	下院議員 カルナタカ州	BJP	61
水資源大臣 Water Resources	ウマ・バラティ Ms. Uma Bharati	下院議員 マディヤ・プラデシュ州	BJP	55
マイノリティ大臣 Minority Affairs	ナジマ・A・ヘプトゥッラー Dr. Najma A Heptullah	上院議員 マディヤ・プラデシュ州	BJP	74
農村開発大臣 Rural Development	ゴピナートラオ・ムンデ Mr. Gopinathrao Munde	下院議員 マハーラーシュトラ州	BJP	64
消費者・食糧・公的分配担当大臣 Consumer Affairs, Food and Public Distribution	ラムヴィラス・パスワン Mr. Ramvilas Paswan	下院議員 ビハール州	LJP	67
中小零細企業大臣 Micro, Small and Medium Enterprises	カルラージ・ミシュラ Mr. Kalraj Mishra	下院議員 ウッタル・プラデシュ州	BJP	73
女性・児童育成大臣 Women and Child Development	マネカ・サンジャイ・ガンディー Mrs. Maneka Sanjay Gandhi	下院議員 ウッタル・プラデシュ州	BJP	57
化学・肥料大臣 Chemicals and Fertilizers	アナント・クマール Mr. Ananth Kumar	下院議員 カルナタカ州	BJP	54
通信・IT 大臣 Communications and Information Technology 法務大臣 Law and Justice	ラヴィ・シャンカル・プラサード Mr. Ravi Shankar Prasad	上院議員 ビハール州選出	BJP	59
民間航空大臣 Civil Aviation	アショク・ガジャパティ・ラジュ・プサパティ Dr. Ashok Gajapathi Raju Pusapati	下院議員 アンドラ・プラデシュ州	TDP	62
重工業・公営企業大臣 Heavy Industries and Public Enterprises	アナント・ギーテ Mr. Anant Geete	下院議員 マハーラーシュトラ州	SS	62
食品加工業大臣 Food Processing Industries	ハルシラト・コール・バダル Mrs. Harsimrat Kaur Badal	パンジャブ州	SAD	47
鉱山・鉄鋼・労働・雇用大臣 Mines Steel Labour and Employment	ナレンドラ・シン・トーマー Mr. Narendra Singh Tomar	下院議員 マディヤ・プラデシュ州	BJP	56
部族大臣 Tribal Affairs	ジェウル・オラン Mr. Jual Oram	下院議員 オディシャ州	BJP	53
農業大臣 Agriculture	ラダ・モハン・シン Mr. Radha Mohan Singh	下院議員 ビハール州選出	BJP	65
社会正義・能力開発大臣 Social Justice and Empowerment	タワールチャンド・ゲロット Mr. Thawarchand Gehlot	上院議員 マディヤ・プラデシュ州	BJP	66
人的資源開発大臣 Human Resource Development	スムリティ・ズビン・イラニ Mrs. Smriti Zubin Irani	上院議員 グジャラート州選出	BJP	38
保健・家庭福祉大臣 Health and Family Welfare	ハルシュ・ヴァルダン Dr. Harsh Vardhan	下院議員 デリー準州選出	BJP	59

※ BJP-インド人民党、LJP-人民の力党、SAD-シロマニ・アカリ・ダル、SS-シヴ・セナ、TDP-テルグ・デサム党

3. アッサム・ダージリン紅茶の旅(2014年4月12日~21日) ASSAM & DARJEELING 2014

初鹿野みのぶ(個人会員)

インドに興味を持ったのは、子供の頃に飲んだ1杯のダージリンティが始まりです。

「この紅茶はどうしてこんな香りがするのだろう?」と不思議に思ったものです、それが何時から「この紅茶が育ったインド、ダージリンへ行ってみたい」と思うようになり、1981年初めてダージリンを訪ねました。茶園で働くティーマンに「ダージリンティの優れているところは?」、「土壌、品種、気候」と即答、紅茶に対する熱い情熱を感じました。その後訪ねた折には「ダージリンのお茶の樹は世界の盆栽である」。茶樹は大切に育てられていたのです。



〈各産地のマーク; 左から
インド紅茶、ダージリン、アッサム、ニルギリ〉

インドが世界最大の紅茶生産地(2013年度生産量は約100万ト)であることをご存知でしょうか。三大生産地(北東のアッサム、ダージリン、南インドのニルギリ)により個性が変わります。

その中でも「アッサム」は、赤みの強い水色、ミルクティーにしても負けない力強いボディ、甘みのある味わいで紅茶好きに愛され、生産量は全インドの50%を超えるものです。一方、紅茶のシャンペンと称され、世界中でその名が知られている「ダージリン」生産量はインド総生産量の1%にも満たない年間1万ト弱の超貴重品。この収穫量の違いは、広大なアッサム平原と急峻な高地にあるダージリンとの立地条件の違いにあります。そのアッサム地方は、外務省勧告では渡航の是非検討地域とされ、観光で気軽に行く所ではありませんが今回アッサム奥地とダージリンを歩きました。

アッサムへはコルカタから空路、アッサム州グワハティへ、グワハティから更に乗継ぎ、奥地ディブガルへ。着陸前から眼下一面に、まるでグリーン絨毯を敷き詰めたような色とりどりの緑が目に入ってきます。大河ブラマプトラの支流が大きな曲線を描いて流れ、その中を茶園が広がっている。現地ガイドから紅白の絵柄のカターを首に歓迎を受けます。丁度、インド暦の新年とビフ祭り、更に総選挙も重なり街は賑やかな興奮状態。パレード、街頭のダンス、家々の飾り、思わぬ歓迎。行けども広がる茶園の風景、そこで働く茶摘み婦たちのカラフルな衣装が緑の中に美しい。アッサムの茶園の独特の風景はシェードツリー(日陰樹)が植えられていること。枝を広げて茶樹を覆い強い直射日光から守り、葉は畑の栄養となり、根は土壌の流失を防ぐ役割を果しています。



〈アッサムの茶園風景(日陰樹の下)〉



〈一芯二葉(手摘みの基本)〉



〈工場へ運ばれる〉

C・A・ブルース(アッサム種発見者の弟、インド紅茶育ての親)が「アッサムカンパニー」の依頼で監督官をしていた茶園、今も残る茶樹、英国人のインド紅茶に賭けた熱い思いを感じます。

アッサムには約800の茶園がありますが、ティーボードの新しい情報では約1,500の茶園とあり、この違いは? 若者に働く環境、自活の道を与えるということで大きな茶園から独立。また、兄弟が相続した小さな茶園も増えたということ。茶を育てることが自活の道に繋がる、厳しい道ですが嬉しいことです。お茶の芽

は摘んで1週間ほどで次の芽が伸び、また収穫できる優れた農作物。自活の道を選んだ若者たちが更に良い茶を作ってくれることを願うばかりです。



〈ダージリンの茶園風景（急峻な勾配）〉



〈茶園でテイスティング〉



〈午前中の収穫〉

紅茶の故郷として知られるダージリンへは、バグドグラ空港から急な道を登り、深い渓谷を貫いて激しく流れる清流、農園の広がり、赤い屋根の小さな集落とそれを覆い尽くすような緑の木々を抜けてやっとたどり着く。かつてグルカ砦の英国人が樹木に覆われた尾根を探索、カンチェンジュンガ山脈を見渡す美しい風景が広がる尾根を発見、ここにダージリンの茶園が作られ、圧倒的な景観と澄み切った空気などから理想的な保養地として英国人に愛されてきたのです。

現在、ダージリン7つの谷に約87の茶園があり、それぞれが谷に沿った地形で形成され、急勾配の斜面にへばりつくように広がっている。Darjee=稲妻 ling=所(チベット語、稲妻が落ちた所)その名の通り、晴天から雨、霧、急に雹が降る、この寒暖差がもたらす厳しい気候があまの香りを育んでいる。茶畑を登るように丁寧に新芽を摘んでいく茶摘み婦たちの笑顔、ダージリンは何時ものように私を迎えてくれました。今年は雨が降らず、春摘み茶の生産量も少なかったようですが香りの高いものが出来ました。



〈サフラン・チャイ〉



〈マサラ・チャイ〉



〈アレンジティー〉



〈茶園でティータイム〉

(細かい茶葉、スパイス、ミルクで作る甘いチャイは庶民の味)

アッサム! ダージリン! チャイ! おいしいお茶をたくさん飲みました。

インドの大地に育ったことを誇りにしている…1杯の紅茶から多くのことを学び、これからも良いものを作り続けていくことを確信した旅でした。

〈写真提供; 初鹿野みのぶ〉

〈筆者紹介〉 初鹿野みのぶ (はつかの・みのぶ)



子供の頃より紅茶に親しむ、1977年実弟と共に「ブンブン紅茶店」をオープン。ダージリンを訪れた事をきっかけに本格的に紅茶に目覚め、インドは第二の故郷。95年より「鎌倉で紅茶を楽しむ会」を開き、1杯の紅茶の楽しさ、奥深さを伝えている。

著書『ダージリンでお茶漬け』

日本紅茶協会認定シニアティーインストラクター、ティーアドバイザー

※ブンブン紅茶店(神奈川県鎌倉市佐助 1-13-4 ☎&FAX 0467-25-2866 10:00~19:00)にて、8月1日~31日まで、今回の旅行の写真展「ダージリン・アッサム紅茶産地に行く」を開催。

4. インドニュース (2014 年 4 月)

News from India

I. 内政

5月16～17日

- インド下院総選挙は、4月7日～5月12日にかけて投票が行われ、16日、一斉に開票された。17日午後、選挙管理委員会が全543議席の開票結果を発表。各党の獲得議席は以下のとおり(括弧内は現有議席からの増減)。

国民民主連合(NDA)陣営	336	統一進歩連合(UPA)陣営	59
インド人民党(BJP)	282(+170)	कांग्रेस党	44(-155)
シヴ・セナ(SS)	18(+8)	民族主義会議派(NCP)	6(-2)
テルグ・デサム(TDP)	16(+10)	民族ローク・ダル(RLD)	0(-5)
人民の力党(LJP)	6(+6)	JK民族協議会(JKNC)	0(-3)
シロamani・アカリ・ダル(SAD)	4(±0)	民族ジャナタ・ダル(RJD)	4(+1)
民族ローク・サマタ党(RLSP)	3(+3)	インド統一ムスリム連盟(IUML)	2(±0)
アプナ・ダル(AD)	2(+2)	ジャールカンド解放戦線(JMM)	2(±0)
全インドNR कांग्रेस(AINRC)	1(+1)	ケララ会議派(KM)	1(±0)
国民人民党(NPP)	1(+1)		
人民労働党(PMK)	1(+1)	その他政党	148
ナガランド人民戦線(NPF)	1(+1)	全印アンナ・ドラヴィダ進歩連盟	37(+28)
SWABHIMANI PAKSHA(SWP)	1(±0)	(AIADMK)	
		全印草の根会議派(AITC)	34(+15)
		ビジュ・ジャナタ・ダル(BJD)	20(+6)
		テランガナ民族会議(TRS)	11(+9)
		YSR कांग्रेस党	9(+7)
		インド共産党マルクス主義派(CPI(M))	9(-7)
		社会主義党(SP)	5(-16)
		庶民党(AAP)	4(+4)
		JK人民民主党(PDP)	3(+3)
		全印統一民主戦線(AIUDF)	3(+2)
		ジャナタ・ダル統一派(JDU)	2(-17)
		ジャナタ・ダル世俗派(JDS)	2(+1)
		インド民族ローク・ダル(INLD)	2(+2)
		インド共産党(CPI)	1(-3)
		シッキム民主戦線	1(±0)
		全印ムスリム評議会(AIMIM)	1(±0)
		革命社会党(RSP)	1(-1)
		無所属	3

筆者注: NDAとUPAの所属政党の内訳は、筆者が報道に基づき纏めたもの。なお、大衆社会党(BSP)(前回21議席)、ドラヴィダ進歩連盟(DMK)(前回18議席)については、1議席も確保できなかったため記載無し。

メモ:

インド人民党(BJP)は、単独で過半数(272議席)を超える282議席を獲得し、1980年の同党結党以来、最大の議席数獲得となった。一方、 कांग्रेस党は、44議席のみの獲得と、1999年総選挙時の114議席を大きく下回り、同党として史上最低の議席数となった。BJPは、友党と合わせて336議席を獲得し、歴史的な大勝利を収めた。

5月17日

- 大統領官邸発表によれば、17日、シン首相は、ムカジー大統領に対し、内閣の辞表を提出した。辞表提出に先立ち、シン首相は、最後の閣議を行うとともに、国民に向けてテレビを通じて演説を行った。

5月18～20日

- 大統領官邸発表によれば、18日、選挙管理委員会委員長は、ムカジー大統領に面会し、当選した下院議員

の名簿を提出。

- 大統領官邸発表によれば、20日、ムカジー大統領は、モディ前グジャラート州首相をインドの首相に任命するとともに、モディに対して、その他の大臣の任命を大統領に助言するよう求めた。

5月20日

- 報道によれば、20日、クマール・ビハール州首相の辞任を受け、マンジ氏が州首相に就任した。クマール前州政権の閣僚全員が留任した他、2名が新たに閣僚に就任した。

5月21日

- 報道によれば、オディシャ州議会選挙結果を受け、21日、パトナイクBJD(ビジュ・ジャナタ・ダル)党首は、4期連続で州首相に就任し、パトナイク州政権が正式に発足した。

5月22日

- 報道によれば、22日、モディ州首相の後任のグジャラート州首相として、アーナンディベン・パテル氏(前グジャラート州歳入・都市開発大臣)が就任した。

5月26～27日

- 26日、モディ・インド人民党(BJP)首相候補が大統領官邸において首相就任宣誓を行い、正式に首相に就任。ムカジー大統領は、モディ首相の助言に基づいて、閣内相23名、閣外相22名を閣僚に任命し、モディ新政権が発足した。
- 27日、インド大統領官邸は、モディ・インド新内閣の閣僚名簿(閣内相23名と閣外相22名)を発表。ラージナート・シン BJP 総裁が内相に、スシュマ・スワラージ下院野党議員団長が、外相兼海外居住インド人相に就任。

メモ:

閣内相は、以下のとおり。所属政党について特に明記のない場合はBJP。

- (1)ラージナート・シン内相 (BJP総裁)
- (2)スシュマ・スワラージ外相、海外居住インド人相
- (3)アルン・ジャイトリー財相、国防相、企業相
- (4)M・ヴェンカイア・ナイドゥ都市開発相、住宅・都市貧困問題相、議会相
- (5)ニティン・ジャイラム・ガドカリ道路交通相、海運相(前BJP総裁)
- (6)サダナンド・ゴウダ鉄道相
- (7)ウマ・バラティ水資源・河川開発・ガンジス川再生相
- (8)ナジマ・A・ヘプトゥッラー・マイノリティ相
- (9)ゴピナートラオ・ムンデ農村開発相、町村自治相、飲料水・衛生相
- (10)ラム・ヴィラス・パスワン消費者・食糧公共配給相(連立与党人民の力党)
- (11)カルラージ・ミシュラ中小零細企業相
- (12)マネカ・サンジャイ・ガンディー女性・児童育成相
- (13)アナント・クマール化学・肥料相
- (14)ラヴィ・シャンカル・ブラサード通信・IT相、法務相
- (15)アショク・ガジャパティ・ラジュ・プサパティ民間航空相(連立与党テルグ・デサム党)
- (16)アナント・ギーテ重工業・公企業相(連立与党シヴ・セナ)
- (17)ハルシト・コール・バダル食品加工業相(連立与党シロマニ・アカリ・ダル)
- (18)ナレンドラ・シン・トーマー鉱山相、鉄鋼相、労働・雇用相
- (19)ジェウル・オラン部族相
- (20)ラダ・モハン・シン農業相
- (21)タワル・チャンド・ゲロート社会正義・能力開発相
- (22)スミリティ・ズビン・イラニ人的資源開発相
- (23)ハルシュ・ヴァルダン保健・家庭福祉相

Ⅱ. 経済

5月2日

- 2日、インド準備銀行は、金融安定・開発評議会(FSDC)の下に設置される作業部会がとりまとめた金融機関

の破綻処理枠組みに関する報告書を公表した。同報告書は、包括的な金融破綻処理当局の創設を提唱しており、インドの金融機関の破綻処理制度を国際合意に基づく水準まで引き上げるとともに、インド経済の安定に資する制度整備を目指している。

Ⅲ. 外交

5月16日、17日

- 16日付及び17日付ヒンドゥ紙他は、各国首脳が、以下のとおり、モディBJP首相候補に対して祝辞を述べたことを報じている。
 - *オバマ大統領は電話において、モディ候補に勝利を述べ、印米戦略的パートナーシップと世界の経済状況について協議した。オバマ大統領は、モディ候補に対し、世界最大の民主主義国は選挙民の意思を明確に示した、モディ候補のリーダーシップの下でインドが世界の舞台において重要な役割を果たすことを望む旨述べた。
 - *イギリスのキャメロン首相は、電話でモディ候補に総選挙での勝利について祝辞を述べ、英首相府は公式ツイッターに「インド総選挙でのモディ氏の勝利に祝意を表する。英印関係を最大限に活かすために協力したい。」と掲載した。
 - *オーストラリアのアボット首相は、自身のツイッターにおいて、モディ氏と話し、モディ氏の成功について祝意を表明したこと、及び、印豪関係を強化することに対する期待を述べた。
 - *パキスタンのシャリフ首相は、モディ候補に電話し、BJPの勝利に祝辞を述べ、パキスタンに招待した。
 - *スリランカのラージャパクサ大統領は、モディ候補に電話し、総選挙での勝利に祝意を表明し、スリランカに招待した。

5月21日

- 21日付タイムズ・オブ・インディア (TOI) 紙他によれば、19日、モディ次期首相は、16日のアメリカのオバマ大統領からの電話に関し、自身のツイッターにおいて、印米の戦略的パートナーシップの強化について話したと述べた。

メモ:

TOI紙は、モディ氏のオバマ大統領に関するツイートについて、明らかに冷淡で、距離を置くものであると評価している。さらに、同紙は、今回のモディ氏のツイートは、その他の世界の指導者に対する熱心に見えるツイートよりも後に発出され、ロシアと日本に対するツイートは、オバマ大統領による公式声明やアメリカ訪問への招待等に対する返答よりも明らかに心がこもっているものであったとしている。

Ⅳ. 日印関係

5月19日

- 我が国外務省発表によれば、19日、安倍総理は、モディ・インド首相候補(19日当時)と電話会談を行い、安倍総理から、インド人民党 (BJP) の大勝利に祝意を表し、日・インド関係は「最も可能性を秘めた二国間関係」であるとし、緊密に協力し関係を一層発展させていきたい旨述べ、訪日の招待を行った。モディ首相候補

からは、日本はインドの発展に多大なる貢献を行ってきたとし、今後、日・インド関係の更なる発展のために協力していきたい、訪日招待に感謝する、お目にかかるのを心待ちにしていると述べた。

今月の注目点: インド人民党(BJP)の歴史的な大勝利

インド人民党(BJP)は、単独で過半数(272議席)を超える282議席を獲得。1998年と1999年の総選挙において同党が獲得した182議席をも大きく超え、1980年の同党結党以来、最大の議席数獲得となった。また、BJPは、友党と合わせて336議席の獲得となり、歴史的な大勝利となった。一方、 कांग्रेस党は、獲得議席44議席と低迷し、1999年総選挙時の114議席を大きく下回り、同党として史上最低の議席数となった。 कांग्रेस党及び友党の現職大臣の内、今回の下院総選挙に立候補した18名中、15名が落選するなど、大物議員も相次いで落選した。

今回の極端とも言える結果について、有権者の間に कांग्रेस政権の現状に対する閉塞感が蔓延する中、強いリーダーへの期待が高まり、モディ氏が有権者のそうした期待を受けとめたと言える。具体的には、ここ数年の कांग्रेस党政権下における経済成長の鈍化、インフレの高止まり、 कांग्रेस党指導部の相次ぐ汚職疑惑等により、閉塞感が蔓延していた。そうした中、マイノリティの保護や「庶民主義」を訴える कांग्रेस党よりも、開発と経済成長を掲げるBJPにより説得力があったと言える。また、モディ氏は、BJP首相候補として精力的な選挙運動を展開し、グジャラート州の開発実績をアピールしつつ、インフレ対策、電力供給、道路建設等、庶民目線の政策を強調し、また、汚職に満ちた政府のガバナンスの再生を主張し、ビジネス界やメディア界の支持も得つつ、モディ人気を巻き起こし、選挙戦を有利に進めたと見られる。また、モディ氏は、ヒンドゥー主義的主張は極力控えつつ、逆に下位カーストの出自や少年時代に駄でチャイの売り子をしていたエピソードなど貧しい育ちであることをアピールした。こうした戦術は、従来からBJPの支持層と言われる上位カーストの支持に加えて、下位カーストの支持の拡大にも繋がったと見られる。

モディ首相の連邦政府での行政手腕は未知であるが、首相就任宣誓式では早速、近隣諸国の元首・首脳を招待し、また、「最小限の政府で最大限のガバナンスを」との標語を掲げ、前政権よりも閣僚の数を大幅に減らす等、大胆な政策を開始した。モディ首相の今後の国政手腕に衆目が集まる。

※ムンデ農村開発大臣は6月4日交通事故にて死亡。公認未確認。

5. イベント紹介 Japan-India Events

=◇ 最近のイベント ◇=

◆三角佐一郎氏 白寿を祝う会



5月15日(木)午後1時から、インド大使館 ICC ギャラリーで、三角佐一郎日印協会顧問の白寿を祝う写真展が開催されました。この写真展には、ワドワ大使、世話人としてこの行事全般を取り仕切った小島秀樹日印協会評議員、比良竜虎日印協会理事ご夫妻並びに鹿子木謙吉日印協会理事をはじめとして、三角顧問と長年交流のあった方々約50名が参加し、たいへんな盛況でした。弊協会事務局からは、当日所用の為残念ながら参加できなかった平林博理事長に代わって、青山鑑一事務局長が参加しました。

開会式では、伝統のオイル・ランプ点火式の後、ワドワ大使のご挨拶がありました。大使は、三角顧問のこれまでの長い活動が、日印間の友好親善関係の発展にどれほど貢献したか筆舌に尽くし難い、三角顧問には、現在きわめて良好な日印友好親善関係の今後の発展の様子を、将来にわたって是非とも見守っていただきたい、等々述べられました。

続いて、参加者全員が約60点の写真を本会の世話人でもある鹿子木理事の説明を聞きながら鑑賞しました。これらの写真は、主に三角顧問のこれまでの長いインドとの交流を示す写真でしたが、ご自身が撮影された写真も約10点展示されていました。これらの写真を通じて三角顧問のインドに対する思い入れが、ひしひしと参加者の胸を打つものがありました。

続いて、場所を変えて、大使館から至近距離の日本料理店で三角顧問の白寿を祝う昼食会が開催されました。これには、比良理事ご夫妻を含む約20名が参加しました。三角顧問は、極めてご健康で参加者から健康の秘訣を尋ねられたのに対し、「ヨガ」とお答えになっていたのが印象的でした。

尚、「三角佐一郎氏 写真展」は、5月15日(木)～5月20日(火)まで、インド大使館 ICC ギャラリーで開催され大勢の方々が訪れました。

◆カタカリ舞踊劇公演 —インド伝統のカタカリ舞踏を観劇して！—



南インドケララ州に伝わるカタカリ・ダンスが、5月26日、インド大使館の講堂において披露されました。

カタカリ・ダンスは、歌舞伎役者以上のメイクアップと独特の服装をしたもので、題材はインドの二大叙事詩マハーバータ及びラーマヤナの逸話から取っています。

昔からインドには多く伝統舞踏が存在し、中でも宮廷ダンスのカタカリ、バーラタナティアム、オディッシーは4大インドの伝統ダンスに数えられています(もう一つはマニプリ)。最近では日本の女性で学んでいる方々也多いらしく、色々な機会に鑑賞する

ことができます。筆者は、これらの舞踏には度々接する機会があったので、カタカリ・ダンスも他の3大ダンスと同じようなものであろうとたかをくくっていました。

しかし、実際の舞台に接して、今までのインド舞踊とは全く異なる、何とも素晴らしい感動を覚えました。舞踏とは顔の表情、手足の動き、身体の微妙な動作等に芸術性を見出すものであろうが、このカタカリ・ダンスは、正に極致を行く芸術です。役者の顔は、叙事詩中の善人や神(クリシュナ神やラーマ神など)は緑、悪役は赤でメイクアップされ、白目を赤く充実させるために特殊な薬を注入します。メイクアップと着付けに多い時で4時間もかかると言われ、現地では、夜を通して上演されることも多くあります。ダンスは、歌舞伎同様に様式化され、同じように目を大きく動かし足をふみならします。役者の表現は実に豊かで、迫力あることこの上ありません。例え筋書きが分からなくとも、何となく表現したいストーリーを即座に彷彿させます。日本の歌舞伎役者が、顔の表情に生命を掛けるのと相通じるものがあるように思いました。

カタカリ・ダンスの日本公演は数が少ないが、インドを愛する会員の皆様には、機会あれば、是非ともこのカタカリ・ダンスを観劇下さい。日印協会でもこのようなイベントあれば、ご紹介します。

なお、この度のカタカリ舞踊劇公演は、奈良では「菩提僊那継承事業」の一環として、東北では東日本大震災復興支援として上演されました。

◆Notice お知らせ◆

Dear Friends,

From this month Mr. Katsuyoshi Sasada (笹田勝義 former Secretary General) assumes the position as Executive Director after me and Mr. Shunsuke Satomi (里見駿介) becomes regular member of JIA office as councilor. I will stay as one of the Directors.

At this occasion I would like to thank you for your cooperation and support extended to me and JIA in last 8 years.

Looking forward to seeing you again at the events by JIA and others.

Yuji Hara

皆様

長年勤務した会社を退職した翌日が、協会事務所の引越ということで、雑巾持って初出勤してから早いもので8年が経ちました。

インドのことを勉強したいとの気持ちから、当時の佐々木常務理事にお願いして始めたお手伝いでした。会社勤務ではお会いする機会の少ない写真家、舞踊家、音楽家、学者先生とお知り合いになることができ、面白い体験も多くなりました。

当時、インド核実験の影響もあり、法人会員の退会が相次ぎ、存続も危ぶまれた協会ですが、現在では法人会員は110社を超え、500名近い個人会員の方々に支援をして頂くまでになりました。インドが存在感を増し、日印関係も大きく発展したことが理由だと思います。そして、当時の苦しい事務局を佐々木理事と事務局員の長田さんが必死に頑張って、現在の平林理事長にタスキを繋かれたことが大きかったと思います。更にインドの神々の陰ながらのお力も間違いなくあったと思います。

この度、一身上の都合で事務局でのお手伝いは辞めますが、今後も日印関係発展のうえで何かお役にたつ機会があれば参加したいと思っています。長い間お世話になり有難うございました。

原 佑二

6. 新刊書紹介 Books Review

§ 『みんなが好きなインド料理+南インド料理 — 少なめのオイルとスパイスで作る』



著者：マバニ マサコ / 発行：柴田書店

価格：1,600 円+税 ISBN 978-4-388-06189-1 C2077

2011 年に本誌でもご紹介した『いちから始めるインドカレー』の著者マバニ マサコさんによる、塩と油を控えて本格インド料理を作るコツが盛り込まれた料理本です。「スパイスを入れるタイミング」や、「スパイスが足りない時は、～」など、初心者がためらいがちな点にも丁寧な解説がついていて、試したくなるレシピばかりです。

§ 『みんなのおうちカレー』



編集：松田 亜子・鍋倉 由紀子（柴田書店） / 発行：柴田書店

価格：1,300 円+税 ISBN 978-4-388-06190-7 C2077

カレーと言えばインドのはずが、何故か日本の国民食とまで言われています。20 名の方が作る様々なカレーのレシピやエピソードが収録されていて、試したくなるカレーが見付かりそうです。インドがきっかけのカレー好きの方もそうでない方も、それぞれ一過言有の一冊です。

§ 『上級日本人英語論』



著者：佐々木 洋 / 発行：風詠社

価格：1,429 円+税 ISBN 978-4-907439-47-7 C0037

著者は、東京外国語大学英米語学科を卒業後、海外勤務を経験しながら実践的な英語を身につけていきます。本書では、実例を挙げながら世界に通用する英語とはを述べ、臆することなく日本人英語で堂々と発言しろ、と説いています。インド駐在時の体験事例は、これからインドへ赴任される方にお勧めです。

§ 『東方 第29号』



編集兼発行人：公益財団法人中村元東方研究所

価格：非売品 ISSN 2186-0440

公益財団法人中村元東方研究所機関誌です。

「中村元先生東方学院講義録」、「第5回神儒仏合同講演会」、「特別寄稿」、「論考」、「資料」、「報告」、「情報」からなり、8本の論考が含まれています。

7. 掲示板 Notice

＜次回の『月刊インド』の発送日＞

次回発送は2014年7月18日(金)を予定しております。7-8月合併号ですので、催事チラシの封入をお考えの方は、日程をご確認のうえ事務局までご連絡下さい。チラシを封入する際には、当該催事の協会会員に対する割引等特典の配慮をお願いしております。チラシ印刷の前にご一考下さい。

＜事務局からお願い＞

本年度の会費未納の方には、今月の『月刊インド』にも会費納入のお願いを同封しておりますが、会費未納の場合は、やむなく6月末日を以て退会の手続きを取らせて頂きます。これにより、『月刊インド』の送付、『現代インド・フォーラム』発刊のご案内、協会主催・共催のイベント等のご連絡をお届けする事が出来なくなります。なお、会員継続ご希望の方は、協会事務局までご連絡下さい。

＜編集後記＞

皆様は、ロボットコンテスト通称ロボコンをご存知でしょうか。ある一定条件をクリアしたロボット同士が、その年のテーマに沿った動作を行い、勝敗を決します。今年の大学ロボコンのテーマは“A SALUTE TO PARENTHOOD (親子の絆)”で、親子ロボットがシーソー、ブランコ、ポールウォーク、ジャングルジムの4つの遊具を乗りこなすのが課題で、今年の優勝校は、金沢工業大学です。そして、優勝校はABUアジア・太平洋ロボットコンテストへ出場します。今年は、インドのプネで8月24日に開催予定です。インドからは、ニルマ大学とビーマタ・ジジヤパイエ工科大学が参戦します。

ところで、ブランコと言えばインドでは瞑想の為の道具であったと記憶していますが、定かではありません。確実なのは、編集子がブランコで瞑想していたら、転げ落ちて瞑想の先に逝くと言う事です。

他の遊具もそうですが、乗りこなすにはかなり高度で複雑は動きが要求される、ハード・ソフト両面の技術力の高さを競うロボコンで、是非日本対インドの決勝戦を見たいものです。ガンバレ!! (記 渡邊恭子)



入会随時受付中



1903年、大隈重信、澁澤榮一らによって創設された日印協会は、これまで日印の相互理解の促進を目的として、両国の友好親善に関する事業を行ってきました。両国の友好関係を更に深める為にも、協会会員の獲得は重要な課題であると考えています。

インドに興味のあるお知り合いの方がいらっしゃいましたら、是非日印協会をアピールして下さい。ご希望により、当協会の活動に関する諸資料をお送りいたします。日印協会の活動に賛同して頂ける多くの法人会員・個人会員のご入会をお待ちしております。

☆年会費：個人 6,000円/口
学生 3,000円/口
一般法人会員 100,000円/口
特別法人会員 150,000円/口

☆入会金 個人 2,000円
学生 1,000円
法人 5,000円
(一般法人、特別法人会員共に)

本誌に掲載致します投稿等は、執筆者のご見解・ご意見であり、
当協会の見解を反映するものではありませんので、念のため申し添えます。



月刊インド Vol.111 No.5 (2014年6月13日発行) 発行者 平林 博 編集者 青山 鑛一
発行所 公益財団法人 日印協会
〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-1-14 スズコービル2階
Tel: 03-5640-7604 Fax: 03-5640-1576 E-mail: partner@japan-india.com
ホームページ: <http://www.japan-india.com/>

